

第1回福岡空港調査連絡調整会議 議事概要

1 日 時 平成15年7月30日(水) 13:30~14:35

2 場 所 福岡国際会議場 5階 502会議室

3 出席者

(1)連絡会議委員

国土交通省九州地方整備局長 渡邊 茂樹
(代理出席 九州地方整備局副局長 梅木 勇二)
国土交通省大阪航空局長 岩見 宣治
福岡県副知事 武田 文男
福岡市助役 西 憲一郎

(2)幹事会

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長 東 俊夫
国土交通省大阪航空局飛行場部長 松本 清次
福岡県企画振興部理事 田村明比古
福岡市総務企画局理事 中島 紹男

(3)本省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長 茨木 康男
国土交通省航空局飛行場部計画課地域航空施設計画官 八鍬 隆

4 次第

(1)開会

(2)国代表挨拶

(3)地域代表挨拶

(4)出席者紹介

(5)議事

連絡調整会議の開催要領(案)について

事務局より資料説明後、委員より会議における調整事項等について質疑が行われ、開催要領が了承された。

福岡空港の総合的な調査について

・福岡空港を巡る最近の情勢

九州地方整備局より説明された。

・福岡空港の総合的な調査(案)

・福岡空港の総合的な調査 平成15年度の実施内容(案)

事務局より一括説明後、委員より調査内容等について質疑が行われ、案に従って進めることが了承された。

・今後の開催予定

事務局より説明され、了承された。

(6)閉会

5 主な発言内容（順不同）

（１）連絡調整会議の開催要領（案）について

事務局： 福岡空港の総合的な調査は、早い段階から内容等を公表し、意見をいただきながら、調査自体にも反映していく。また、双方向で情報を共有しながら調査を進めていくことが重要である。

情報提供及び意見収集の具体的な進め方は、今年度、国、県、市が共同して、学識者の意見も聞きながらこの場を通じて検討する。

（２）福岡空港の総合的な調査について

< 地域への影響 >

委員： 福岡空港の混雑は福岡市の様々な都市活動に影響を与える問題でもあり、早急な対策が必要。調査がテンポよく進み、最善の方策が得られるよう、十分な協議をお願いしたい。

< 現空港の有効活用 >

委員： 福岡空港は非常に便利な空港で、立派な施設があり、最大限有効に活用したい。エプロン、誘導路、ターミナルビル等施設の改善、拡充整備によりどこまで空港能力が高まるかまで踏み込んで検討する必要がある。

委員： 空港能力は物理的・技術的にギリギリまでという一方、安全性が大前提だ。

委員： 現空港の整備・運用については、今まで福岡空港の地元の方に協力をいただきながらやってきた。今後、情報公開等調査の過程で、地元との協力、理解を得ながら進めることが円滑な調査のために大事であるので、十分な配慮をお願いしたい。

< 航空サービスの評価基準 >

委員： 利用者の視点に立った航空サービスの指標や評価基準の検討は、今まで一般的に行われていないが、今後、調査進める中で評価基準を用いて検討していく必要がある。

< 情報提供及び意見収集 >

委員： 情報を提供して幅広く意見を収集していくことを、調査の各段階で繰り返していくことになる。

< 調査期間 >

委員： あらかじめ調査期間を設定することは難しい。調査の進捗を見ながら次年度どこまでやるか検討していくことになるのではないかと。

< 近隣空港との連携 >

委員： 近隣空港との連携方策の調査については、旅客の利用条件等の分析を行い、効果が見込める方策について検討することになると思う。

< 調査内容・役割分担 >

委員： 国と地域の調査は相互に関連、重なり合っている。効率的に進めるために、互いに関連する部分につき十分に連絡をとって、齟齬が生じないように調整しながら進めていきたい。

委員： 既存ストックの有効活用、近隣空港との連携、抜本的な空港能力向上策の各調査は、順番にやっていくのではなく、並行してやっていく。ただ、調査の成果を出して実行に移していくということについては、比較的早期にまとめることができるもの、情報を公開しながら県民の意見を集約するために時間をかけて合意形成を目指していくものに分かれてくると思う。イメージとしては、現空港に色々な改善を加えるものは比較的短期間で出来る可能性があるが、新空港は大変大きなテーマなので、時間もかかり慎重にやる必要がある。いずれにしろ、出来るだけ前を向いて精力的に行い、早く答を出すということであり、時期的には異なってくる。